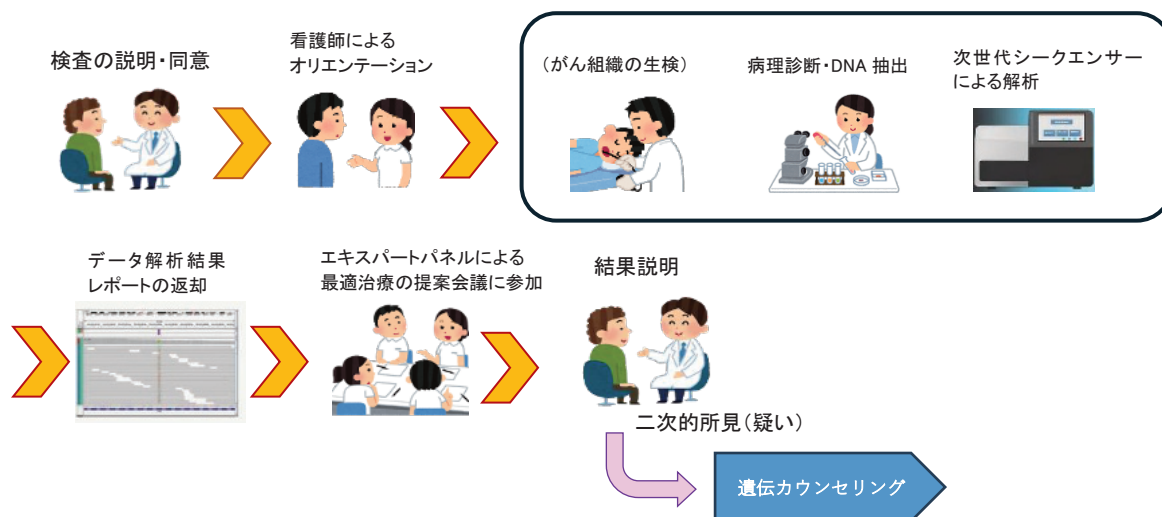


● 活動目的

がんの組織または末梢血を使って多数の遺伝子を同時に調べる「がんゲノムパネル検査」によって、遺伝子変異を解析し、それを元に治療を行うことを「がんゲノム医療」と言います。2019年6月から、次世代シーケンサーという一度に100以上の遺伝子を解析する方法が保険適用となったことで、がんの変異によっては患者さん一人ひとりにあった最適な治療につながるできるようになりました。当センターは、2020年6月よりがんゲノム医療連携病院に指定され、2020年10月よりがんゲノム医療に携わる診療科等のスタッフと連携を図り、患者さんの診断や治療に役立つがんゲノム医療の提供のために活動を行っています。

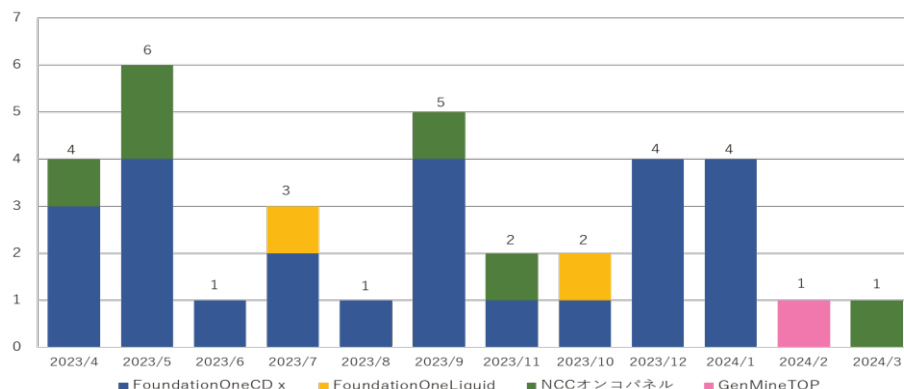
● 活動状況

がん遺伝子パネル検査の流れ



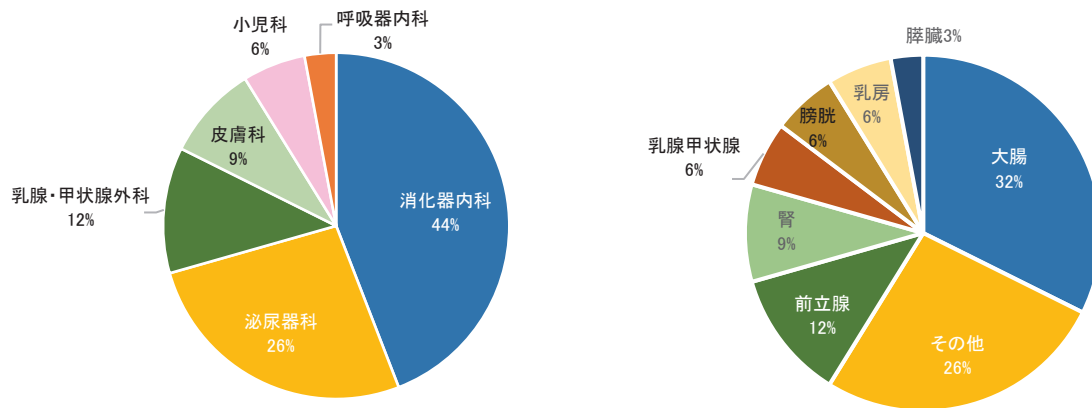
1. がんゲノムプロファイリング検査の種類別件数

<2023年4月から2024年3月末までの実績は34件です>



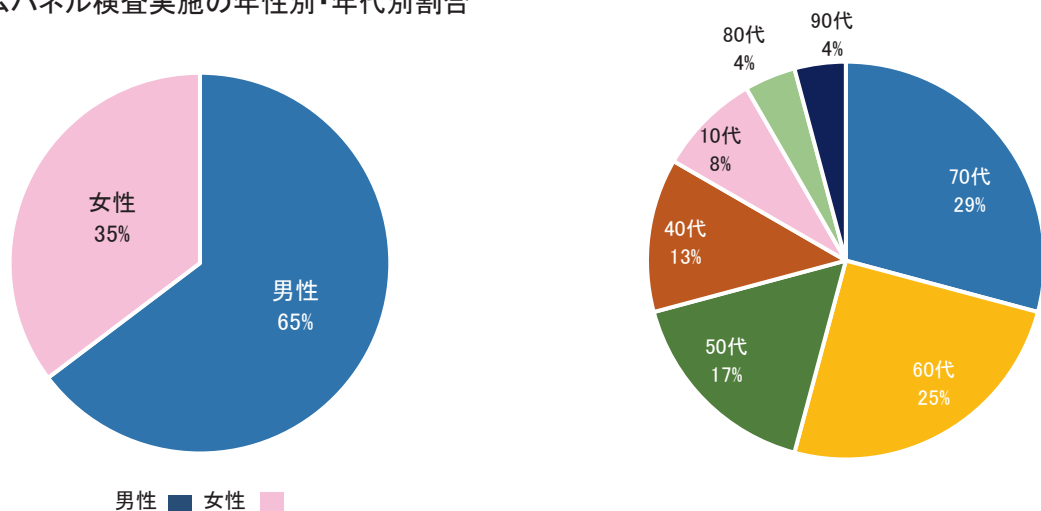
➤ 検査種別: FoundationOneCDx25件 FoundationOneLiquidCDx2件 NCCオンコパネル6件 GenMineTOP1件

2. がんゲノムパネル検査実施の診療科別・臓器別割合



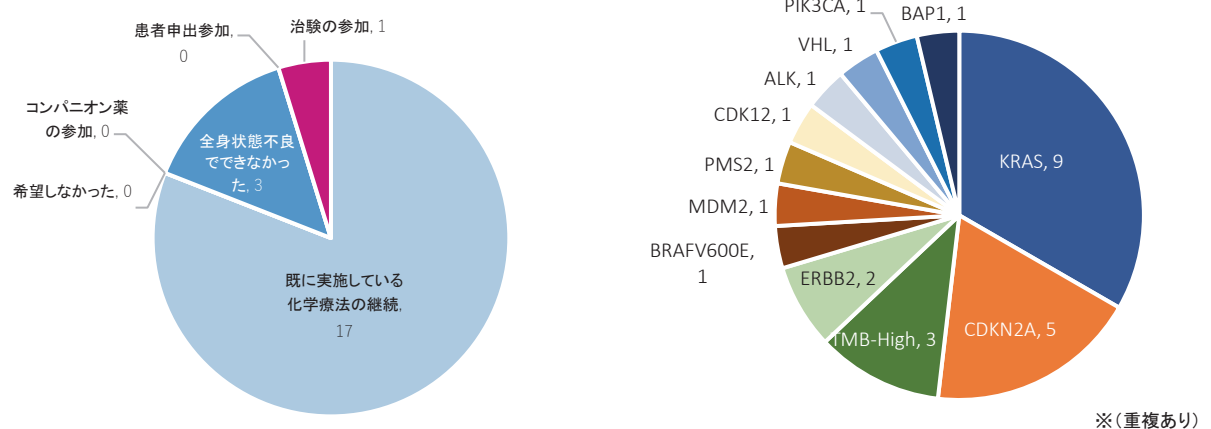
- 当院では、消化器内科と泌尿器科が全体の7割を占めており、臓器別では大腸癌に次いで希少癌（原発不明、パジェット病、Vater乳頭、腎芽腫、悪性黒色腫等）が多かった。

3. がんゲノムパネル検査実施の年性別・年代別割合



- 当院では、男性が7割を占めており、年代別では70代と60代が多くを占めている。

4. エキスパートパネル後の遺伝子変異と、治療薬・治験の件数



- がんゲノムパネル検査の結果、推奨された治療薬・治験は全体の6割であった。その中で治験参加が1例(岡山大学で実施)のみであった。また、推奨された治験薬のうち、パネル検査の前までに既に使用されていたのが3件は、TMB-High(MSI-H1例含む)遺伝子に対する薬剤だった。
- 遺伝性のバリエーションが見つかった方の家系への検査や、早期発見を目的とする検診も行っている。